

議員（古川 幸義）

10番、古川 幸義でございます。

通告順により、次の質問を致しますので、ご答弁よろしくお願い致します。

初めに私事ではございますが、昨年の12月議会、今年の3月議会におきまして、病気のために欠席致しまして、皆さんに多大なご迷惑をおかけした~~こと~~、この場をお借りしまして、お詫びしたいと思います。

また、治療中に際しましては、丸尾町長、また、岡部副町長、温かいお見舞いの言葉を頂きまして、誠に有難うございます。

この場をお借りしまして、お礼申し上げます。

それでは、質問に入らせて頂きます。昨年の9月議会、総務教育常任委員会において、令和4年度における財政健全化法に係る4指標の公表について資料が配付され、説明があった結果、将来負担比率173.1と数値は高く、前年比より数値は若干改善されたにも関わらず、全国ワースト3という悪い結果でありました。

要因としては、公共施設の老朽化に伴い、補修などの建設工事、駅周辺整備工事費がかさみ、債務残高が増加したのが主な原因であります。

総務省が発表する令和4年度将来負担比率ワースト1位から3位において、ワースト1位は山形県長井市234.4、ワースト2位が北海道夕張市220.7、ワースト3位が多度津町173.1であります。

資料に先ほど申しました1位が山形県、2位が北海道、3位が香川県の多度津町でございます。

多度津町の過去の将来負担比率、数値を述べますと資料がありますので、令和元年はワースト26位で数値は152.7、令和2年度がワースト21位、数値は149.4。令和3年度は、ワースト4位でありながら182.4。これが令和3年度、順位が上がりましてワースト4位となっております。

年々、将来負担比率の数値は高止まりを続け、ワースト順位は上位になっております。

現在、ワースト2位の夕張市においては、2007年、353億円の赤字を抱えて事実上破綻し、全国に名前を知れ渡ることになりました。

夕張市のように破綻すれば、当然のことながら、行政サービスは切り詰められて人々の生活は大きく変わり、若者は町を出ていき、厳しい早期健全化を図るがゆえに住みにくい町となっております。

住民の人口の流出は、止められぬ結果となっております。

これが、夕張市の公共施設であります。このように外壁は落ちて窓ガラスが割れて悲惨な状況となっております。

これも1番下のこの部分ですが、これは市立美術館でございましたが、積雪や老朽化のために、こういう風に外壁が壊れております。

本町は決して第2の夕張市にならないように、財政の健全化を早急に推進するべきと強く思っております。

財政健全化の質問については、私は過去に何度も行い、答弁を頂いておりますが、今回は、各課を統括する岡部副町長に、ぜひ答弁を頂きたいと要望しますので、よろしくお願い致します。

それでは、質問に入らせて頂きます。令和4年度の将来負担比率173.1、全国ワースト3位となっておりますが、これはどう受け止められておりますか、質問致します。

副町長（岡部 登）

お早うございます。

古川議員の令和4年度将来負担比率の本町の受け止め方についてのご質問に答弁をさせていただきます。

平成19年6月に地方公共団体の財政の健全化に関する法律、いわゆる財政健全化法が制定され、毎年度の決算時に財政の健全化判断比率及び資金不足比率を算定することが義務付けられました。健全化判断比率には実質赤字比率、連結実質赤字比率、実質公債費比率及び将来負担比率の4つの指標があり、地方公共団体の財政状況の健全化を表す指標となっており、それぞれの指標ごとに基準が設けられております。

本町では平成26年度以降、中学校改築や消防庁舎、防災行政無線、緊急避難路や小学校の空調設備改修、庁舎及び地域交流センター建設など南海トラフ巨大地震を始めとする大規模災害から町民の皆様を守るために必要な防災対策を中心とした大規模普通建設事業を継続して実施してきたことにより、令和4年度の将来負担比率は173.1%となりました。

財政健全化法では「財政健全化計画」を策定し、自主的に財政の健全化を図るよう求められる「早期健全化基準」これは将来負担比率の場合、350%とされております。現時点での本町の財政状況は健全段階にあると言えますが、全国自治体と比較すると非常に高い比率となっていることについて、このことについては重く受け止めなければならないと考えております。

一方で、県が発行している「香川県市町行財政要覧」によりますと地方公共団体の標準的な状態で通常収入されるであろう経常的一般財源の規模を示す本町の標準財政規模は令和4年度では57億円余りとされておりますが、令和4年度の決算状況に照らし合わせますと、ほぼ国の定める標準値であること。また、指数が高いほど財政に余裕があるとされる財政力指数は0.6と県内17市町の中では5番目に高く、さらに県内9町の平均を上回っていることなどを考慮しますと財政破綻した自治体とはやや財政的な構造が異なっており、今後、同様の結果にはならないと考えております。

しかし、町民の方々にご心配をおかけしている将来負担比率を含む健全化判断比率の改善に向け、起債残高の縮減や事業の改善等に取り組んでいきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（古川 幸義）

ただ今の答弁に対しまして、再質問致します。この質問は、今まで度重なって質問してまいりましたので、多くは質問致しませんが、1点だけ再質問したいと思っております。

これ、皆様方にお見せしているのは、5年間の財政健全化で本町と他の市町との差を棒グラフにしております。

最初は、平成30年は、この赤の数字が夕張市でございまして、非常に高い数値で440.2となっております。

年々、赤い数値は改善されて、令和4年度では第2位となっております。

この青い数字は山形県長井市ですが、やはり本町と同じように、その公共施設の老朽化と伴って市の財政規模を上回る債務を作りまして、このような悪い結果になっております。

他の市町もございまして。緑とか薄緑は広島県とか、奈良県の河合町でございまして、1番注目されるのは、この黄色の部分で、本町の数値のグラフでございまして。今現在3位という形で、このようなグラフになっております。

で、再質問でございまして、財政規模に合わせた事業計画と町債残高を目指すのが賢明であり、毎年外部より選出された監査委員の指摘されたところは、是正していき、やっぱり数年かけて正常な数値にしていくのが、町民に対する姿勢であると思っておりますが、いかがでしょうか。お伺い致します。

副町長（岡部 登）

古川議員の再質問に答弁をさせていただきます。

夕張市につきましては、2007年、平成19年に財政再建団体、現在の呼び名は財政再生団体に指定されたことをきっかけに事実上、国の管理下に置かれました。国に認められた当初予算の計画にない予算を市だけの判断で計上することは1円たりとも許されません。

先ほど古川議員さんがお示し頂いた写真がその証拠でございまして。将来を悲観し職員が去って、残った職員は1人当たりの仕事量が増えたのに光熱水費の増額が出来ないため、庁舎内の温度が氷点下になるような中で残業しなければならない。

そんな苛酷な状況が報道されましたが、国や県の助けを借りながら、古川議員のおっしゃられたように350億円に上った累積赤字を埋めた特例債の返済が2026年度末に終わることになっております。夕張市は現在でも約100億円の一般会計の規模、これは多度津町とほとんど似ておりますが、その4分の1、約25億円を返済に充て続けております。

因みに平成19年度の将来負担比率は、夕張市の場合1,237.6で、最初の5年間程度は想像を絶するような緊縮財政を行った結果、毎年、平均して84ポイント以上、その数値を減らし、平成24年度には816.1となりました。

その後、10年間は年平均約60ポイントの減少を続け、令和4年度の数値は220.7となっております。

翻って多度津町は、平成19年度が318.5であり、最初の5年間は夕張市と同様、緊縮財政に舵を切った関係で、毎年35.38ポイントの減少で平成24年度には141.6となりました。

平成26年度も同様に33.1ポイント減少致しましたが、その後、現在までの10年間は、先ほど申しましたようにやらなければならない事業がございましたので、増えたり減ったりを繰り返した結果、年平均に致しますと3.15ポイントずつ増えて現在は173.1となっております。

将来負担比率の数値のみで判断すべきではありませんし、やらなければならない事業はやらなければなりませんので、上がる時に上がり幅が大きくなならないよう、長期的な視野に立ち、基金を積んだりして、10年後には将来負担比率で2桁を目指せるような財政運営を行ってまいりたいと考えております。以上、再質問の答弁とさせていただきます。

議員（古川 幸義）

ただ今の再質問の答弁で相当の数値を述べられて、納得しております。毎回毎回質問しておりまして、やはり、質問と答弁が重なってまいりますので、細かいことは申し上げません。

再々質問ではございませんが、ちょっと意見を述べさせていただきます。

我々議会もこのような将来負担比率の数値の悪さが続くことに対して、議会機能を問われるのは、当たり前なことでございます。

議案審議に対しても慎重に審議するのが当然であり、使命であります。

議会からは監査委員を選出し、監査業務をしております。今後は今まで以上に監査を行って頂きたいと切望致します。

次の質問に入らせて頂きます。次の質問は町民に対し情報開示は重要であり、将来負担比率の数値だけではなく、全国的にワースト何位であるか知らせるべきではないでしょうか。お伺い致します。

副町長（岡部 登）

古川議員の町民への情報開示についてのご質問に答弁をさせていただきます。

本町を含む地方公共団体の将来負担比率を始めとする財政健全化判断比率は、決算に基づく健全化判断比率・資金不足比率の概要として総務省のホームページなどで公表されております。

また、地方自治法及び財政状況の公表に関する条例に基づき、本町の財政状況を毎

年5月及び11月に公表するとともに将来負担比率などの財政健全化判断比率は、地方公共団体の財政の健全化に関する法律に基づき、例年、町のホームページや広報11月号に掲載することで、町民の方々に公表しております。

先ほど答弁したとおり、財政状況を表わす指標は様々あるため、状況の悪い一つの指標を抜き出して公表し、いたずらに不安を与えることは適切ではないと考えております。

今後、町民の方々が理解しやすい町の財政状況に係る公表方法について、研究改善していきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（古川 幸義）

再質問を致します。今、お答えになられた町民に対して不安を煽るっていうことは、非常に重要な答弁だと思っております。

町民に対して数値だけではなく、やはり、総務省から財政健全化の数値の評価に対し、1,700ある地方自治体を評価した順位を真摯に受け止め、住民に知らせ、財政の健全化を進めるに当たっては、住民の理解と協力を得なければ、財政の健全化は不可能と言っても過言ではないかと思われます。

ですから、このように、先ほど答弁されましたように財政が健全化をこのようにホームページでお知らせしておりますが、この中には350に対して将来負担比率をそう深刻ではないという風な感じで書かれてますが、やはり、この将来負担比率の総務省で発表する数値では、全国ワースト3位であるということをやはりお知らせするのが賢明だと思われますが、いかがでしょうか。お答え願いたいと思います。

副町長（岡部 登）

古川議員の再質問に答弁をさせていただきます。

確かにワースト3というのは非常にショッキングと言いますか、皆さんの心に残ることだとは思いますが、先ほど申し上げましたように健全化判断基準の数値は350でございますので、約半分程度、まだ健全な状態にあるという風には考えております。

相対的には全国ワースト3位ということにはなっておりますけれども、これにつきましては、先ほど申しましたように平成24年から2年間は下がりましたが、その次の年、また、その次の年は少し上がりました。

それから、その次の年は下がり、また上がって下がり、上がって繰り返しております。

これは本年3月の議案審議の時にもございましたが、予算の一部に反対をされました議員の方が1名、それから、予算の全てを反対された議員の方が4名いらっしゃいましたが、そのことから分かりますように議員の皆様が承認して下さった予算、これだけ使ってもいいよという風に認めてくれた予算しか我々執行部は使うことが出来ません。

つまり、やらなければならないことを今まで頑張ってきたということです。
この程度の差こそあれ、この15年間は、多度津町は議会、執行部、双方が協力し合
って、この難局を乗り越えようとしてきたものだという風に考えております。以
上、答弁とさせていただきます。

議員（古川 幸義）

再質問ではございませんが、やはり、議会側も今までよりも一層に住民の現状の
報告と今後の方針をしっかりと説明することを怠ってはならないと思いますので、次
の質問に入ります。

入ります前に財政健全化比率の予測として、このような資料を作ってまいりまし
た。

先ほど赤の数値が夕張市でございまして、青の数値は長井市の数字でございませ
う。やはり、財政健全化を図るために長井市も相当努力しておりますが、やはり高止
まりの数値がなかなか下がらず、250から200台のところで高止まりをしております。
先ほど岡部副町長おっしゃいました夕張市においては、やはり、国から早期財政健
全化計画をしております、この赤の数値が物語るように、かなりの数値がダウン
しております。

大体年間平均で約20%の数値が改善されて、一応想定ではございますが、令和9年
度には100を切るような数値になっております。

本町は170から160、このラインを高止まりが、ずっとこういうような数値でござ
います。

やはり、これには償還が今、始まっておりますから、幾ら努力してもなかなか努力
に対して下がらないっていう数値が物語っているんじゃないでしょうか。

このような数値を我々議会も真摯に受け止めて、やはり、行政と議会が一緒に財政
健全化を図らないとどうしてもこの数値は改善出来ないと。このように思ってお
ります。

3点目の質問に入らせて頂きます。充当可能基金の残高について、令和4年度財政
調整基金12億4,000万、その他目的基金を合わせ22億8,000万となっております
が、財政調整基金は、景気の悪化や災害時に取り崩す重要な財源であります。もしもの
時を考え、積み立てるべきではないでしょうか、質問致します。

副町長（岡部 登）

古川議員の財政調整基金の積立てについてのご質問に答弁をさせていただきます。

財政調整基金は議員のおっしゃるとおり、決算剰余金などを積立て、財源不足や大
規模災害などの不測の事態が発生した際に取り崩すことにより、年度間の財源を調
整するための基金であり、町の普通預金とも言えるものです。

近年、大型普通建設事業の実施が続いたことに加え、人件費や公債費など経常的な
歳出の増加等により生じた財源不足を同基金で補填しており、積立てた額よりも多

くの額を取り崩す状況が続いているため、同基金を十分に積み立てることが出来ない状況です。

このような中、同基金を増加させるには、まず、歳出超過が続く現状を毎年度の収支が均衡する健全な状態に戻していくことが肝要だと考えています。

本町の決算の推移を検証し、あらゆる歳入確保策を講ずるとともに既存事業の見直し等による歳出削減を行うことで財政収支の均衡を図り、財政調整基金だけではなく、学校教育施設等整備基金を始めとする特定目的基金につきましても積み増せるよう努めていきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（古川 幸義）

ただ今の答弁に対しまして再質問をさせていただきます。財政調整基金は、財政規模の10%から15%と言われております。

先ほど56億円でしたか、それが本町の財政規模とその数値から試算致しますと、財政規模50億円を超えておりますので、約5億から7億5,000万であります。これは大きな規模の姿勢で算出する想定額でございます。

本町では、前の質問で町長がお答えなられました財政調整基金は16億円を積み立てないと、そういう風な意見を答弁をなされまして、まさに16億円が賢明な数値だと思っております。

今後、来る有事に対しましても、備えるためにも財政調整基金を積み上げるべきと思われます。再質問でございますが、答弁をお願い致します。

副町長（岡部 登）

古川議員の再質問に答弁をさせていただきます。

先ほど申しましたように本町の場合、スタートの時の借金が少し多過ぎました。

そのために毎年返していくお金が他の平均的な市町よりも多いという関係で、少し硬直化が見られます。

そのために、今、古川議員がおっしゃられたような5億から10億、その位の財政調整基金の規模よりも少し何に使ってもいいっていうお金が少ないもんですから、少し高めの設定をしております。

町長が申しました15億というのは、その位あれば、いざという時にも対応も出来ますし、住民の皆さんの福祉が滞ることなく対応出来るという規模という風に考えております。

ですので、なるべく皆さんにご迷惑かけるようなことがないように、少しでも積み増しが出来るように頑張っていきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（古川 幸義）

ただ今の答弁について、再質問ではございませんが、希望がございます。

年々、不用額、かなりの額で各課から出ております。不用額については、年度末ま

でに置くっていう必要性もあろうかと思いますが、本来は補正を行った時、不要とみなされるものは、すなわち、不用額として決算をするべきであると。

そして、年度末に関しては、今まで不用額を取り除いた金額で歳出と歳入のバランスを考えて取り行っていくのが賢明と思われますが、また、その辺はよろしく願いしたいと思います。

続きまして、第4点目の質問に入らせて頂きます。

現在、町債残高の償還は、年約10億4,000万円でございますが、令和9年において想定ではございますが、約12億円に増大していく中、今後の事業の計画や見直しなどはどのようにお考えでしょうか。

一例としましては、今後の幼稚園の統合、小学校の統合、公共施設の耐震化や整備などが入っております。財政の健全化を進める中で、逆に今後、投資しなければならない事業もあると思いますが、当局のお考えをお伺いしたいと思います。お願い致します。

町長（丸尾 幸雄）

古川議員の町債残高を考慮した今後の事業計画等についてのご質問に答弁をさせていただきます。

公債費の令和5年度決算見込みは10億4,100万円強、令和6年度予算では10億1,300万円強を見込んでおり、議員ご指摘のとおり、役場庁舎等の償還が始まるため、令和9年度まで10億円程度の償還が見込まれております。令和4年12月に策定致しました中期財政計画、これは令和5年から令和9年度であります。投資的経費を5億円から5.7億円程度となるよう、縮減を行うことで町債の新規発行を抑制し、町債残高の減少等により数値の改善を目指すこととしております。このような財政状況の中で新規事業を行う場合は、財政への影響を見極めた上で優先順位をつけ、既存事業の見直し等により財源を確保するなど、より慎重に実施することとして健全な財政運営を維持出来る範囲で事業を進めていきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

議員（古川 幸義）

ただ今のご答弁に対しまして、再質問をさせていただきます。今後の償還額は増えてまいりますが、借りたものは返すのが当たり前で、償還の何割かは国から交付されますが、全額ではありません。

今後は、義務的経費も投資的建設経費も計画性を持ち、町債残高の縮減を図っていくのは当然でございますので、済みませんが、お考えをお聞かせ願いたいと思います。

総務課長（谷口 賢司）

古川議員の再質問に答弁をさせていただきます。

ご質問にあるとおり、起債の残高でございますけども、これを減少させる。そして

公債費を減少させる。これは喫緊の課題であろうと考えてございます。

まず、起債残高でございますが、令和5年度末の一般会計の地方債残高は142億9,590万5,000円でございます。

因みに前年度、令和4年度末の一般会計地方債残高は148億2,614万8,000円で、5億3,024万3,000円の減少となっております。

公債費に関しましては、今から新たな償還が始まってまいります。ですので、古川議員さんが先ほどご質問にありましたとおり、10億円を超えて償還をしていく。これは、もう必ず返さなくてはいけないお金でございます。

これに関しましては、予算の中で予算措置をしていくところでございますけれども、それをするため、そして起債残高を減らすためには、本町内でどのような事業を行っていくのかということ役場の中でも庁舎内でも検討しております。

その一環として、幼・小・中学校を始めとする町が所有している公共施設の整備をどのように行っていくのかということについて、庁内で協議を行う公共施設再編町有地有効活用検討プロジェクトチームというのを作成致しました。

そして、それは全課長がメンバーとなり、自分事として取り組む体制を構築しております。

5月20日に第1回会議を開催し、旧庁舎や旧福祉センター、幼稚園統廃合、公共施設個別施設計画などの協議を進めることを決定しております。

また、都市再生整備計画による補助制度などの情報共有を行いました。

先ほどの答弁にもあるとおり、地方債残高の減少と財政調整基金等の積み増し、既存事業の見直し、そして、公共施設の再編や旧庁舎等に係る新たな投資的事業など相反するような課題が山積しておりますが、プロジェクトチームで議論を経た後、実施案を作成し、議会との協議やその時点での財政状況等を見据えながら、事業決定を行っていきたいと考えております。以上、答弁とさせていただきます。

失礼致しました。先ほどの答弁で単位が間違っていたというご指摘がありました。

令和4年度末の一般会計の地方債残高は148億2,614万8,000円でございます。そして、令和5年度におきましては、前年度から比較して5億3,024万3,000円の減少となっております。失礼致しました。

議員（古川 幸義）

ただ今、総務課長が質問に対して答弁されましたが、まさしく数値化してまいりました。

一般会計の地方債残高148億2,600万。詳細は述べませんが、これに対して他に将来負担額としては、色んな数値のものがございまして、公共下水道や中讃広域、また、退職手当の積立て、土地開発公社のそういう風な負担額に対しての償還、合わせて227億4,051万でございます。

このような将来負担額、普通の町債残高だけではなく、これは将来にわたって払わ

なきやいけない額ということを真摯に受け止めて、我々議会の方もやはり、早期財政の健全化が図れますように、努力していかなければいけないと、このように思っております。

最後になりますが、これをちょっとご覧になって頂きたいと思うんですが、私の知人にドイツのブレーメンに住む方がおられて、多度津町を回られて、こんなご意見を述べられました。

貴町は、素晴らしい財産がある。高台から町内を眺めると立派な工業団地があり、人々が働き、町には活気がございます。他の町と比べれば、財源も豊かであるでしょうと絶賛されていました。

また、もう一つは、見立から眺めた風景であります。眼下には瀬戸内海が広がり、また、眼下にはスイートスプリングの畑があり、真っ白い小さな花を咲かせておりました。

素朴な田舎が広がり、非常に美しい夕焼け間近は、瀬戸内の海が幾重にも色が変わり、貴町の貴重な財産であると絶賛されておられました。

このような国際的な目から見ても称賛されることは、日本中、世界中に配信しても称賛を得ると同時に、是非、この風景を見に立ち寄りたいと思われる方は多いと思われま

す。この意見は、長期にわたり、アメリカで在住された知人や世界の半周を長期的に回られ国際貢献された知人も同じく、素晴らしい景色と称賛されております。

是非、このようにすぐれた観光資源を埋没しないように世界に向けて配信する努力を惜しまないようにして欲しいと願って、私の質問を終わりたいと思います。どうも有難うございました。